

ネット利用リスク診断シートの取り扱いについて

NPO 法人青少年メディア研究協会

インターネットの利用には、使い方や危険性の理解だけでは不十分です。人間はロボットと違い個性があり、異なる性格を持っています。冷静な時は落ち着いて判断できますが、何かの拍子に我を忘れ感情がむき出しになり、必要以上にマイナス思考になるものです。

メディアであるインターネットは人の精神や思考に直接影響を与えます。ですから、メディア利用時は常にメディアから影響を受け、喜怒哀楽が激しくなります。普段なら悪口は良くないと思っても、その場に立つと平然と人をののしりたくなる場合があるのです。そのため、性格や冷静な思考など、自分の特徴や弱点を見つめることはとても重要です。自分の課題をあらかじめ知ることで、日ごろから慎重にメディアを利用する助けとなります。

この診断シートでは、大まかに「加害リスク」「被害リスク」「冷静な態度」の3点で危険度を診断します。なお、ここでいう危険度とは、問題を起こしやすい(あるいは抱えやすい)傾向を測ることを意味しています。診断の結果は本人の性格や日常生活を否定するものではなく、あくまでネット利用時の心理傾向を見るためのパラメーターとして考えください。また、実際のトラブル発生条件には、個人の性格的なリスクだけでなく、利用頻度や子どもを取り巻く生活環境なども考慮する必要があります。そのため、診断結果だけを理由にした個別指導には、十分ご配慮くださいますようお願いいたします。

加害リスク (自己中心・身勝手さ)	不適切な情報の発信による各種問題の発生リスクを診断します。 この数値が高いほど、心無い発言、不適切な画像や動画の発信行為がされやすくなります。
被害リスク (心配・不安・気づかれ)	言葉に対する過剰反応やマイナス思考によって不安や心配が高まる傾向を診断します。 この数値が高いほど、自意識過剰になりやすく、問題を自分で抱え込め込んでしまう可能性があります。
冷静さ (冷静な態度)	冷静に自分を見つめる能力の高さを診断します。 性格や個性とは、それ自体が良い悪いではなく、状況に応じて向き不向きが現れます。性格的にネット利用に不向きであっても、冷静になれる思考を持つことで自分の弱さや課題を補うことができます。